平成30年度 学生生活実態調査報告書(別冊)

学生生活実態調査報告概要



まえがき =

本学では、平成30年7月1日を調査基準日とし、学部学生、大学院生、外国人留学生を対象とした「学生生活実態調査」を実施しました。調査の目的は、本学在学生の生活環境等の現状を把握するとともに、修学指導上の基礎資料を得ることにより、今後の福利厚生施策の充実と教育研究環境の改善等に役立てようとするものです。この調査は、アンケート方式により3年ごとに実施されており、今回で第11回目となりました。

調査項目は、生活環境から大学での授業、課外活動、そして日常生活における悩みや進路・就職相談など、広い範囲に及んでいます。特に、授業以外での学習の状況、海外留学、ボランティア活動、学生プロジェクト、インターンシップ、そしてキャリアセンターや学習支援室などについての調査も行いました。また、ハラスメントに関しても踏み込んだ質問項目を設けました。これらは、大学の教育改革の進展とともに、受動的学習形態から、能動的学習形態に重点が移ることに加え、グローバル化の視点を持つことが必要であり、さらには人間関係やメンタルヘルスの面も含めて、その実態を捉えておくべきと考えたことによります。

アンケート調査の集計結果は、その全での内容を令和元年5月に学内向けのホームページ上に調査報告書として公表しております。また前々回より調査結果の概要をわかりやすく紹介することが好ましいと判断し、調査報告書(別冊)としてこの「学生生活実態調査報告概要」を作成しました。調査報告書とともに今後の大学教育の改善・充実に役立つものと考えております。

最後に、調査に協力いただいた多くの学生の皆さんに、この場を借りてお礼申し 上げます。

> 九州工業大学学生委員会 委員長 副学長(学生·附属図書館担当) 赤星 保浩

目 次

1. 調査の概要	3
2. 住居と通学	3
3. 食事	5
4. 経済状況・経済支援	7
5. 学生生活	12
6. 学習状況・学習支援	14
7. 課外活動 (学部生のみ)	20
8. 留学	21
9. ボランティア活動	23
10. 学生プロジェクト	24
11. 悩み・健康等	25
12. 進路・就職支援	28
13. 危機管理支援 ************************************	33
おわりに	34

1. 調査の概要

1. 調査の目的

本学学生の生活実態を把握し、本学における厚生補導業務の運営の参考とし、修学指導上の基礎資料を得ることを目的とする。

2. 調査基準日 平成30年7月1日現在

3. 調査の対象

平成30年7月1日現在の学部学生、大学院 生、外国人留学生の全員とした。

4. 調査票の配布・回収方法

調査票の配布は、学部1年~3年生について は必修科目の授業で配布・回収し、学部4 年生・大学院生及び留学生については指導 教員を通して調査票を配布・回収した。

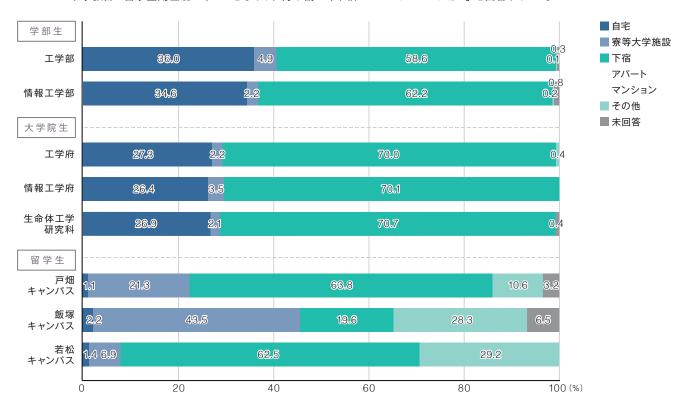
回答者の内訳

		対象学生数(人)	回収数(人)	回収率(%)
学 部	工 学 部	2,234	1,453	65.0
	情報工学部	1,797	902	50.2
学 部 計		4,031	2,356	58.4
大学院	工 学 府	561	490	87.3
	情 報 工 学 府	378	318	84.1
	生命体工学研究科	320	283	88.4
大 学 院 計		1,259	1,091	86.7
外国人留学生		256	213	83.2
合	i it	5,546	3,660	66.0

2. 住居と通学

1. 現在の住居区分はどれですか

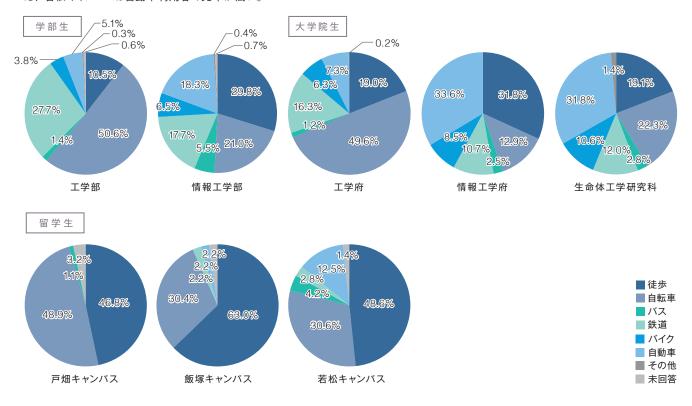
【日本人】前回調査時同様に、学部生に比べ、大学院生(生命体工学研究科を除く)の下宿・アパート・マンションの比率が高い。また、情報工学部及び大学院生のすべての学府・研究科で自宅の比率が前回調査時(情報工学部 35.3%、工学府 68.1%、情報工学府 62.8%、生命体工学研究科 67.8%)よりも比率が低くなっている。一方、工学部では自宅の比率が前回調査時(33.6%)より高い。【留学生】戸畑キャンパスには明専寮、国際研修館、国際交流会館があるものの、約6割が「下宿・アパート・マンション」と回答している。一方、飯塚キャンパスにはスチューデント・レジデンス、国際交流会館があるが、約4割が「寮等大学施設」と回答しており、最も多い。若松キャンパスには本学独自の留学生用住居がないこともあり、約6割が「下宿・アパート・マンション」と回答している。



2. 現在の住居からの主な通学方法は何ですか

【日本人】工学部・工学府ではおよそ半数の学生が自転車を利用している一方、情報工学部・情報工学府は徒歩の割合が高い。また、情報工学部・情報工学府及び生命体工学研究科は自動車・バイク利用者の比率が高い。

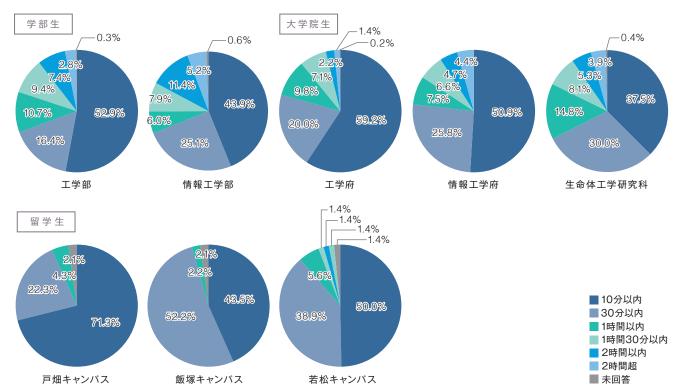
【留学生】日本人学生と同様、戸畑キャンパスではおよそ半数の学生が自転車を利用している一方、飯塚キャンパスは徒歩の割合が高い。また、若松キャンパスは自動車利用者の比率が高い。



3. 現在の住居からの通学時間はどのくらいですか

【日本人】工学部・工学府及び情報工学府は半数以上が「10 分以内」と回答しており、「30 分以内」まで含めると各学部・大学院の7割程度となる一方、情報工学部では2時間以内及び2時間以上との回答があわせて16.6%と他キャンパスより高く、交通の便の都合で通学に時間を要している学生がいることがうかがえる。

【留学生】戸畑キャンパスでは約7割の学生が「10分以内」と回答しており、また各キャンパスとも約9割が「30分以内」と回答していることから、ほとんどの留学生がキャンパス近辺に居を構えていることがうかがえる。

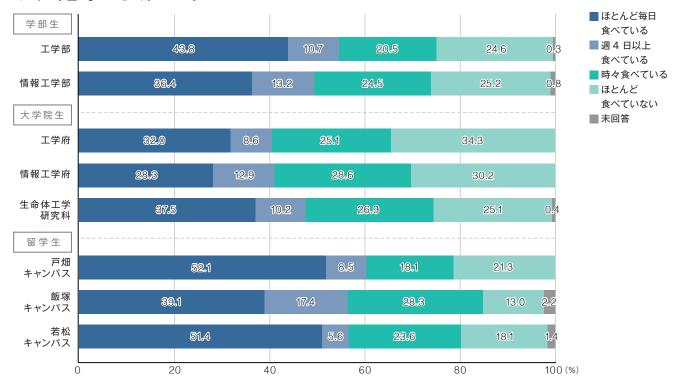


3. 食事

1. 朝食を食べていますか

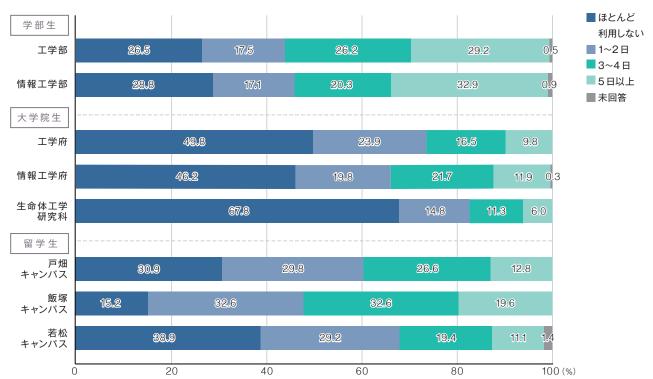
【日本人】前回調査時同様、学部生の半数以上が週 4 日以上朝食をとっているのに対し、大学院生では 40% 程度に減少する。大学院生は自宅外通学(一人暮らし等)の比率が高く、それが影響している可能性がある。

【留学生】「ほとんど毎日食べている」が戸畑キャンパスと若松キャンパスで約5割、飯塚キャンパスで約4割となっており、毎日朝食を食べていない学生が多いことが気にかかる。



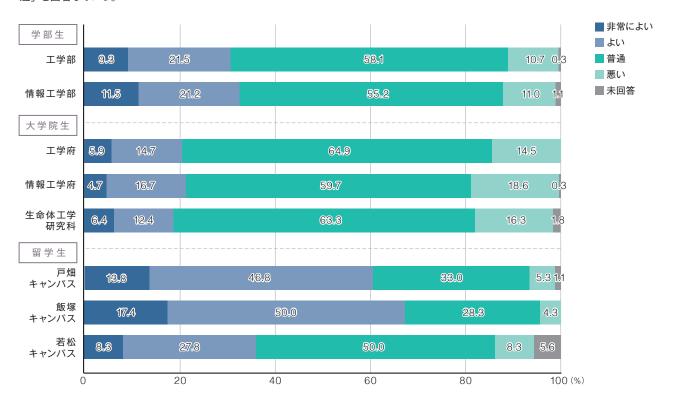
2. 学内食堂を1週間のうち何日くらい利用していますか

【日本人】学部生では、約半数の学生が3日以上利用しているが、大学院生では半数以上がほとんど利用していない。若松キャンパスに至っては、3日以上の利用率はわずか20%弱である。各自でお弁当を準備しているか、あるいは学外で済ませていることがうかがえる。 【留学生】「ほとんど利用しない」「1~2日」との回答が戸畑で約6割、飯塚で約半数、若松キャンパスで約7割となっている。各自でお弁当を準備しているか、学外で済ませているものと考えられる。ハラル専用メニューの提供がないことも影響しているかもしれない。



3. 学内食堂に対するあなたの評価はどうですか

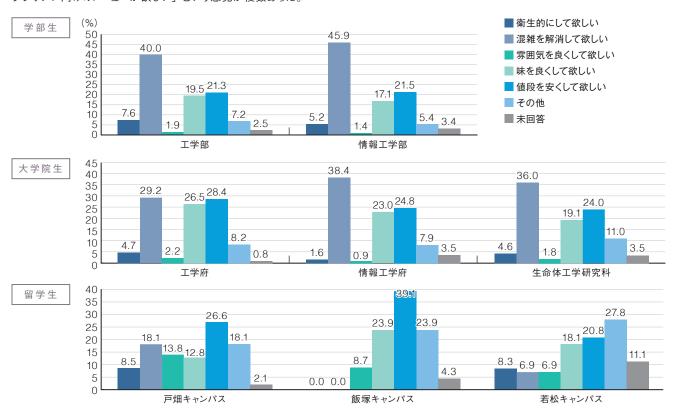
【日本人】全体的に前回調査時と同程度の結果となっており、学内食堂の事業者には改善に努めていただいているものの、学生にうまく伝わっていないことがうかがえる。今後はより学生目線に立った学内食堂を目指して改善に取り組んでいただくよう、事業者に働きかけたい。 【留学生】「非常によい」「よい」が戸畑キャンパスと飯塚キャンパスで 6 割超となっており、おおむね好評である。若松キャンパスは半数が「普通」と回答している。



4. 学内食堂の改善すべき点はどこですか

【日本人】学内食堂の具体的な改善点として、前回調査と同様、1番多いのが混雑の解消、続いて、値段を安くしてほしい、味を良くしてほしいとなっている。

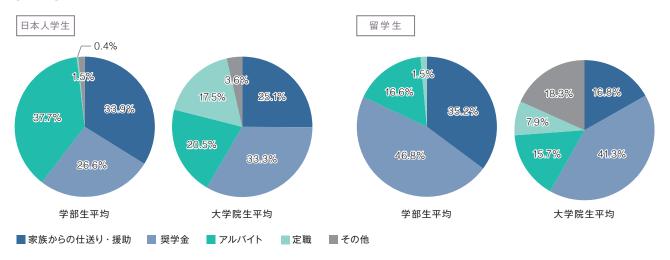
【留学生】日本人学生と比べて、「その他」として具体的な意見の記載が多く見られた。中でも「イスラム教徒向けのハラルフードが欲しい」「ベジタリアン向けのメニューが欲しい」という意見が複数あった。



4.経済状況・経済支援

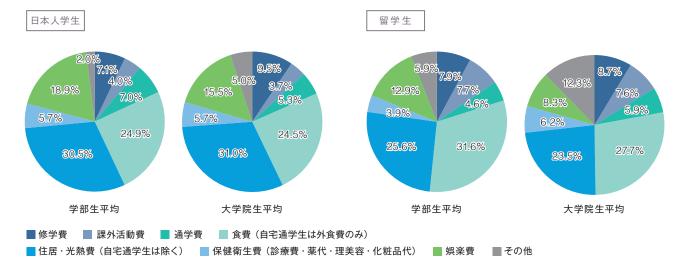
1. 1ヶ月の収入について

【日本人】1ヶ月の収入について、学部生は「アルバイト」が最も多く、仕送りや奨学金だけでは生活費を賄い切れていないことがうかがえる。 【留学生】1ヶ月の収入について、学部生、大学院生ともに「奨学金」が多くを占めている。



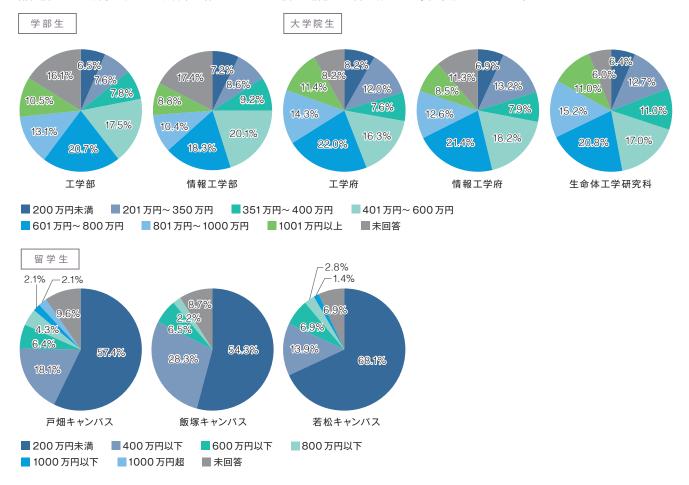
2. 1ヶ月の支出について(授業料、その他の学校納付金は除く)

【日本人】1ヶ月の支出について、学部生及び大学院生ともに住居・光熱水費と食費が大きな割合を占めており、あまり余裕がないようである。 【留学生】1ヶ月の支出について、学部生及び大学院生ともに食費が最も大きな割合を占めており、次に住居・光熱水費が多くなっている。



3. 家庭の年間収入額(税込)はおよそいくらですか

【日本人】家庭の年間収入額については、学部生、大学院生ともに前回調査から大きな変動はなく、家計の状況は概ね変わっていないことが分かる。 【留学生】「200万円未満」が戸畑キャンパスと飯塚キャンパスでは半数程度、若松キャンパスでは7割近くとなっている。また、全体の8割程度が400万円以下であり、日本で暮らすにあたって決して裕福とは言い切れない家庭状況がうかがえる。

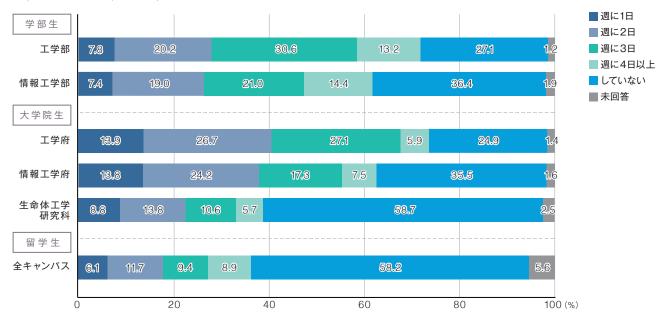


4. アルバイトについて

①アルバイトをしていますか

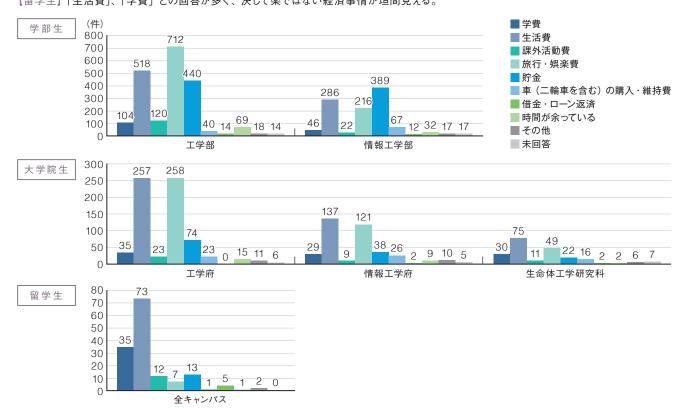
【日本人】学部生、大学院生ともに半数以上の学生が何らかのアルバイトをしているが、若松キャンパスについては 40% 弱に留まりアルバイトの回数も週に2~3日がその半分を占めている。前回調査と比較しても、大きな変化は見られない。

【留学生】約6割が「していない」と回答している一方、2割程度が週に3日以上アルバイトをしていると回答しており、健康や学業に支障を来たしていないか気にかかる。



②アルバイトをする理由は何ですか(アルバイトをしている方)(主なもの2つ)

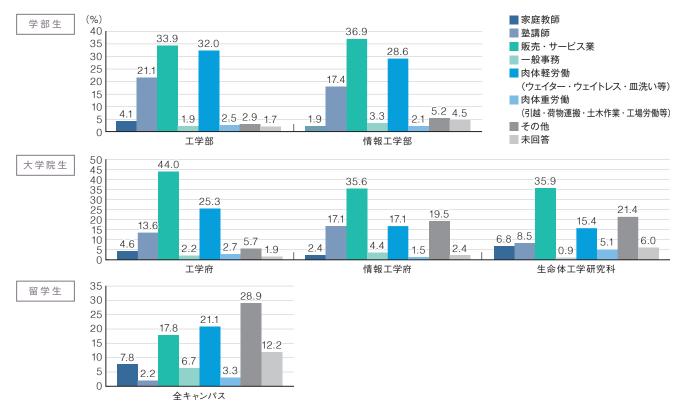
【日本人】アルバイトをする主な理由は、学部生、大学院生ともに「生活費」、「旅行・娯楽費」を稼ぐことが主となっている点では前回調査と同様であるが、前回調査では「借金・ローン返済」よりも「貯金」の割合が大きかったのに対し、今回の調査では特に学部生の「借金・ローン返済」の割合が大きいことから、家計の大きな変動はないものの、学生の経済事情は芳しくないのかもしれない。 【留学生】「生活費」、「学費」との回答が多く、決して楽ではない経済事情が垣間見える。



③主なアルバイトの種類は何ですか(アルバイトをしている方)

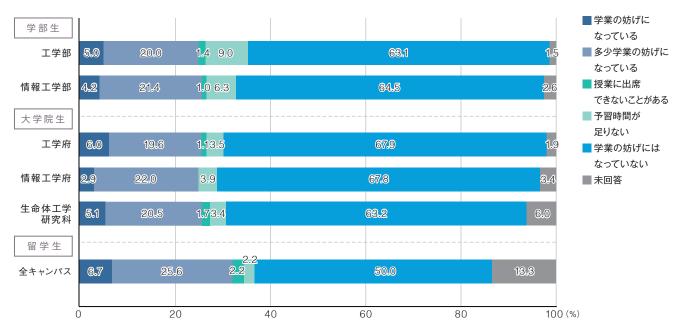
【日本人】前回調査と同様、学生区分に依らずアルバイトの職種としては、販売・サービス業と肉体軽労働(ウェイター、皿洗い等)が半分以上だが、学部生の塾講師の割合が前回調査時(学部生 2.8%)より増えている。

【留学生】最も多い「その他」については、「TA、RA」との記述が多い。次いで日本人学生と同様、「肉体軽労働」、「販売・サービス業」に従事している留学生が多いようである。



④アルバイトと学業の関係はどうですか (アルバイトをしている方)

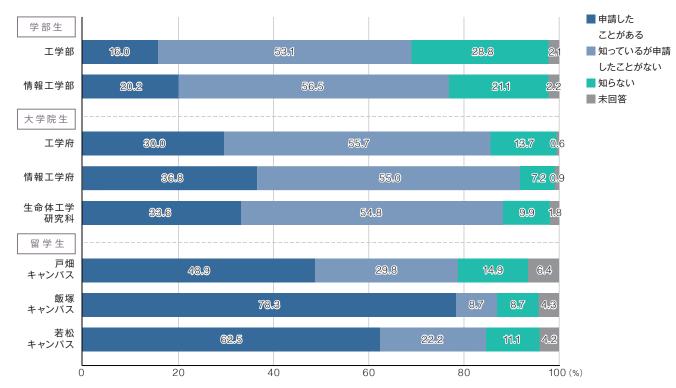
【日本人】学部生、大学院生ともに「学業の妨げにはなっていない」と回答した学生の割合は、前回調査と同様の約 6 割であり、大半の学生は大学生活に支障のない範囲でアルバイトをしていることが分かる。しかし、4 割の学生は予習時間が足りないなど支障をきたしているようである。 【留学生】半数が「学業の妨げにはなっていない」と回答しているものの、「学業の妨げになっている」、「多少学業の妨げになっている」との回答が3割を超えており、学業に支障のない範囲のアルバイトで済むよう、経済的支援が必要かもしれない。



5. 入学料・授業料免除について

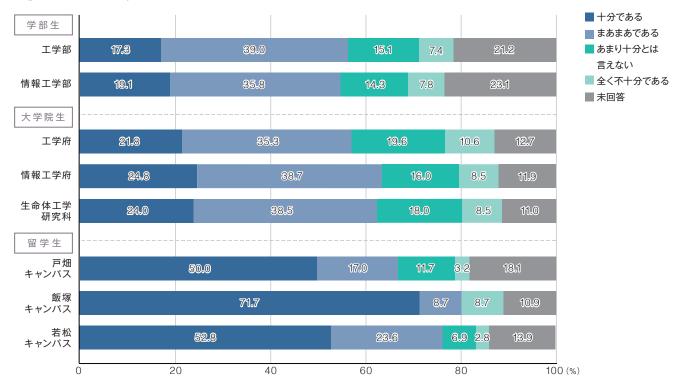
①申請したことがありますか

【日本人】「制度を知らない」と回答した学生は前回調査時と比較して増えているが、「申請したことがある」と回答した学生の割合はほぼ同じで、制度に関する掲示方法等も変えていないことから、制度を必要としている学生は自分から情報を得ようと努力していることがうかがえる。 【留学生】多くの外国人留学生が「申請したことがある」と回答しており、「知っているが申請したことがない」と合わせると 8 割程度が免除制度を認知していることが分かる。



②満足度・充実度

満足度については、学生区分に依らず約 6 割の学生が「十分である」または「まあまあである」と回答しており、制度として充実していると感じているようである。

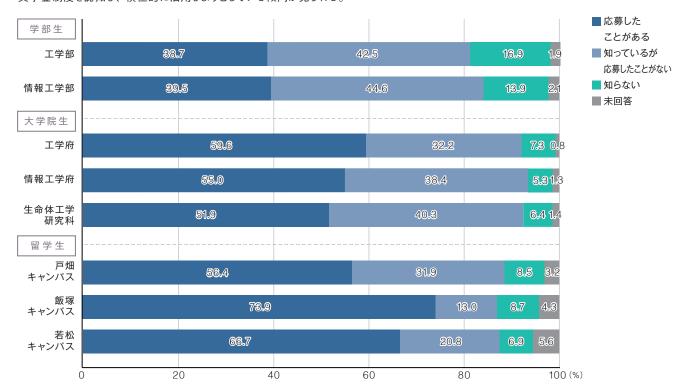


6. 各種奨学金について

①各種奨学金制度を知っていますか

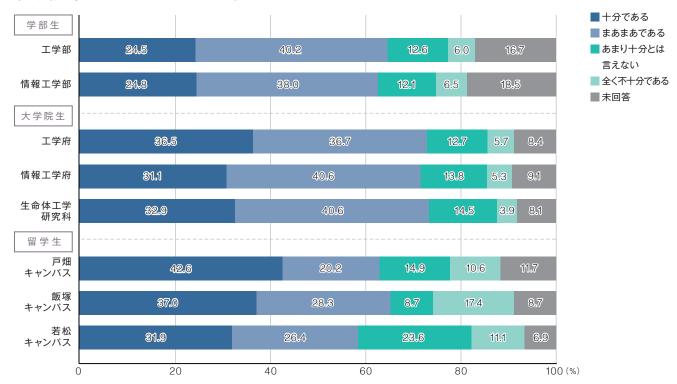
【日本人】学部生、大学院生ともに8割を超える学生が「応募したことがある」または「知っているが応募したことがない」と回答しており、 認知度は非常に高いことが分かる。前述のアルバイトに関する問いでは学生の借金・ローン返済が増えており経済事情が心配されたが、 入学料・授業料免除制度に加え、奨学金についても必要な情報は広く周知され、多くの学生が認知していることが分かる。

【留学生】半数以上の学生が「応募したことがある」と回答しており、「知っているが応募したことがない」と合わせると8~9割近くが各種 奨学金制度を認知し、積極的に活用しようとしている傾向が見られる。



②満足度・充実度

学生区分に依らず、約7割の学生が「十分である」または「まあまあである」と回答しており、満足度も高いことが分かる。しかし、「あまり十分とは言えない」または「全く不十分である」と回答した学生の割合は、前回調査時と比較すると増えていることから、より一層の学生支援が求められるていることがうかがえる。

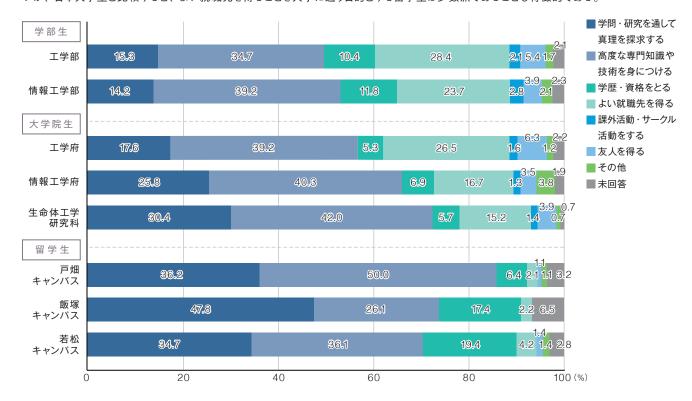


5. 学生生活

1. 学生生活の一番の目的は何ですか

【日本人】前回調査同様、最も多い回答は「高度な専門知識や技術を身につける」であるが、次に多い回答は、学部生と工学府は「よい就職先を得る」、情報工学府と生命体工学研究科は「学問・研究を通して真理を探究する」となっている。

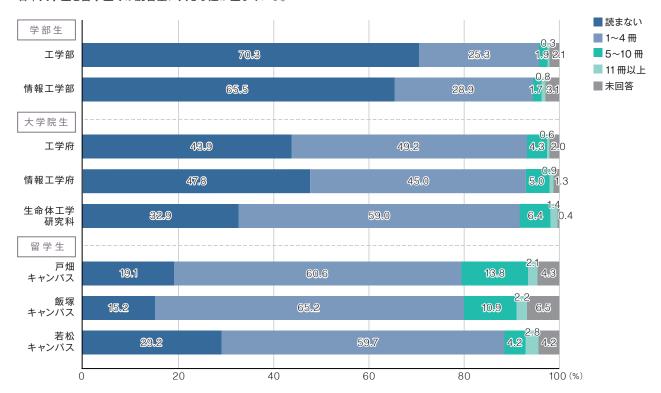
【留学生】キャンパスに依らず「学問・研究をとおして真理を探究する」、「高度な専門知識や技術を身につける」と回答した留学生が最も多いが、日本人学生と比較すると、よい就職先を得ることを大学に通う目的とする留学生は少数派であることも特徴的である。



2. 月に何冊くらい本を読みますか(専門書・専門雑誌)

【日本人】前回調査時に比べて、いずれの結果においても「読まない」との回答が増加傾向にある。大学生の「読書離れ」は本学に限った話ではないが、もっと読書する習慣をつけさせるような対策が必要かもしれない。

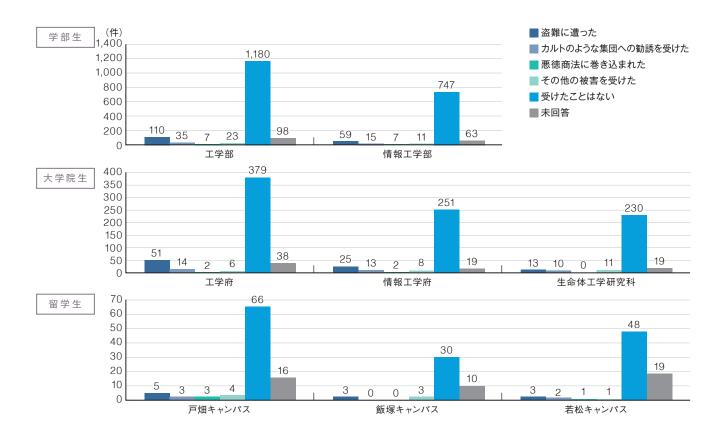
【留学生】日本人学生は半数以上が「読まない」と回答したのに対し、留学生は半数以上が1~4冊はジャンルを問わず読んでいると回答。 日本人学生と留学生では読書量に大きな差が生じている。



3. その他学生生活において、犯罪被害を受けたことがありますか(複数回答可)

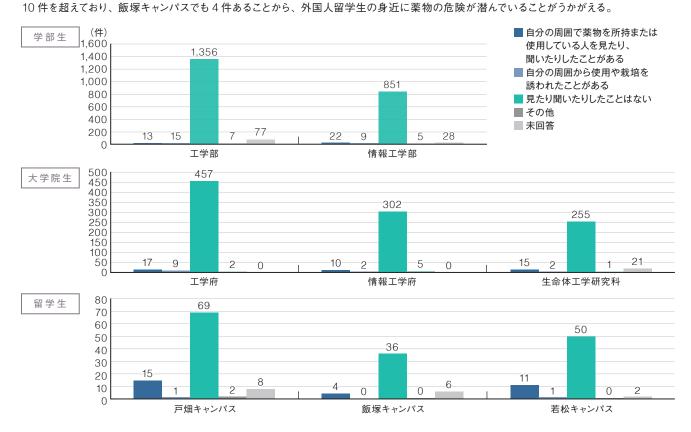
【日本人】盗難被害が最も多いが、件数は全体的に前回調査時から減少している。また、カルトのような集団への勧誘も同様に減少しているものの、引き続き対策が必要である。

【留学生】「受けたことはない」がほとんどではあるが、一部の留学生が盗難等の被害に遭っている可能性がうかがえ、今後も注意喚起が必要である。



4. 薬物(大麻・覚醒剤・危険ドラッグ等)について(複数回答可)

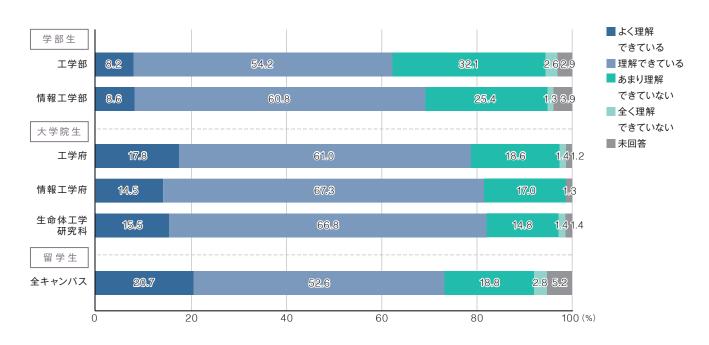
【日本人】「自分の周囲で薬物を所持又は使用している人を見たり、聞いたりしたことがある」や「自分の周囲から使用や栽培を誘われたことがある」と回答した学生がいることが気にかかる。薬物が身近な存在である学生は少数と思われるが、重大な事件や健康障害に至る可能性がある薬物(大麻・覚醒剤・危険ドラッグ等)には絶対に関わらないよう、教育啓蒙活動をさらに徹底する必要がある。 【留学生】戸畑キャンパスと若松キャンパスで「自分の周囲で薬物を所持又は使用している人を見たり、聞いたりしたことがある」との回答が



6. 学習状況・学習支援

1. 全体的にみて講義は理解できていますか

【日本人】前回調査から引き続き、今回の調査でも、全学部・大学院で「よく理解できている」「理解できている」の回答が増加した。特に、情報工学部で顕著な増加が見られ、「よく理解できている」「理解できている」が 11.6% 増加した。 【留学生】約7割が「よく理解できている」「理解できている」と回答しており、比較的よく理解していることがうかがえる。



2. 授業時間以外に、予習、復習、課題、レポート(実験レポート含む)作成等で 1日平均何時間勉強していますか

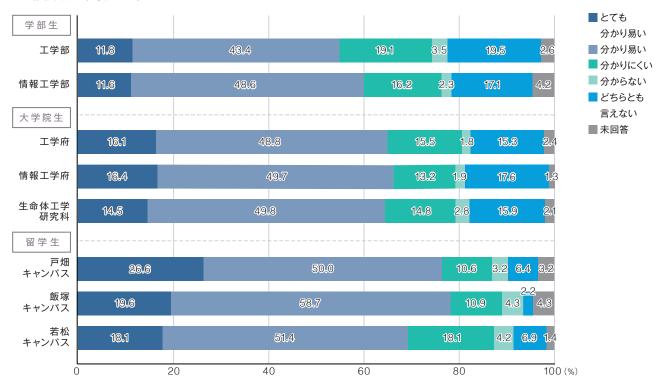
【日本人】学部生では、「1 時間~ 1 時間半未満」が最も多く、前回調査から傾向に大きな変化は見られない。一方、大学院生では、前回調査では「2 時間~3 時間未満」が最も多かったが、今回の調査では、3 大学院とも約 50%が「1 時間 30 分未満」となり、全体的に時間外学習時間が減少している。

【留学生】日本人学生と異なり、授業時間外の勉強時間が「6時間以上」との回答が最も多く、1時間30分未満の回答が少数派であることが特徴的である。また、講義や研究に直接関連しない勉強も行っている留学生が多く見られ、勉強熱心であることがうかがえる。



3. 授業・履修に関するガイダンスやオリエンテーションなどの内容について

[日本人] 全体の 6 割程度が「とても分かり易い」、「分かり易い」と回答しており、前回調査時が全体で 6 割に満たなかったことを考えると、難易度は改善の傾向にある。また、8 割程度の学生は必要性を感じており、満足度も高いようである。引き続き難易度を改善しながら継続実施の必要がある。 【留学生】約7割強の留学生が「とても分かり易い」又は「分かり易い」と回答しており、前回調査時は全体で6割だったことに鑑みると、留学生にとって分かり易い内容に改善されたと言えるであろう。また、8割程度の学生は必要性を感じており、満足度も高いようである。引き続き内容を精査しながら継続実施の必要がある。

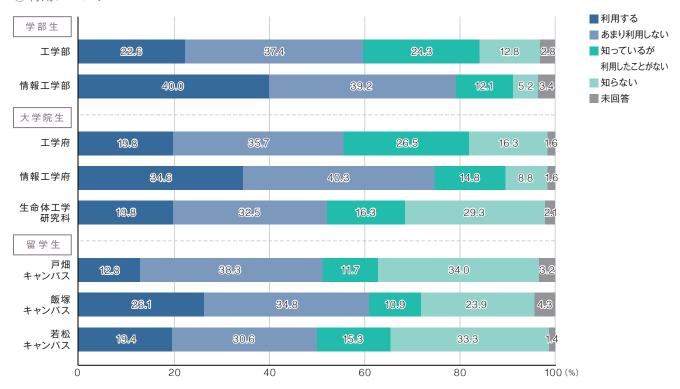


4. 学修自己評価システムによる学修支援について

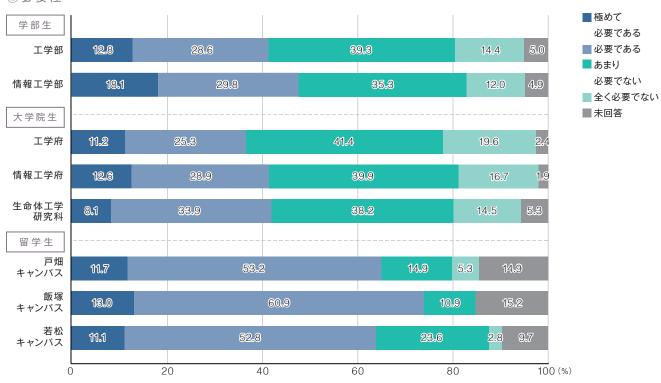
【日本人】前回調査時同様、「利用する」の割合は飯塚キャンパスが突出して高い。これは情報工学部 / 府では講義等で PC を使用する頻度が高いことによる。また、生命体工学研究科は約 3 割が「知らない」と回答しており、外部からの進学者が多く学修自己評価システムが浸透していないことがうかがえる。

【留学生】全体的に約5割の留学生が利用しているが、約3割は「知らない」と回答しており、日本人学生と比較すると認知度に大きな差が生じている。約7割の留学生が必要性を感じていることから、利用の案内をより積極的に行う必要があるのかもしれない。

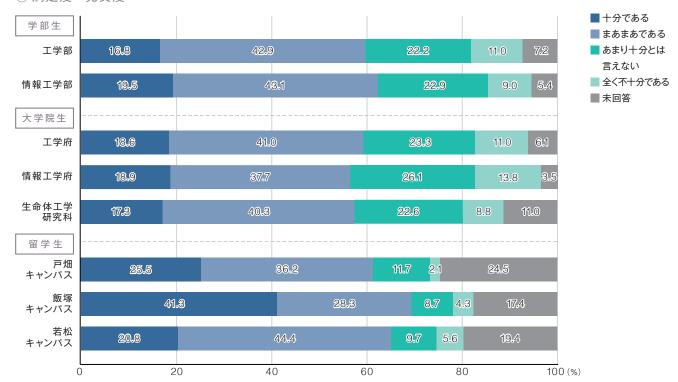
①利用について



②必要性



③ 満足度・充実度

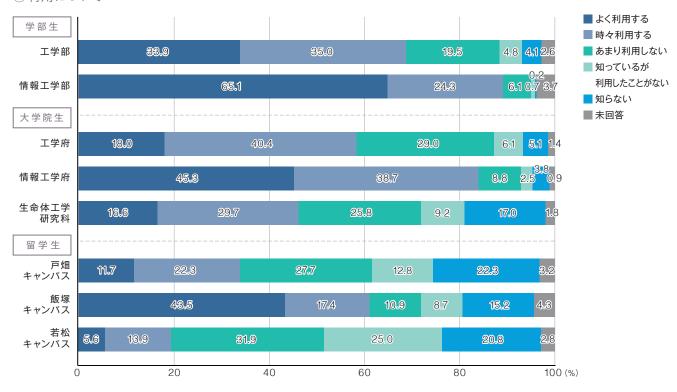


5. Moodle (学習支援サービス) による講義に関する学修支援について

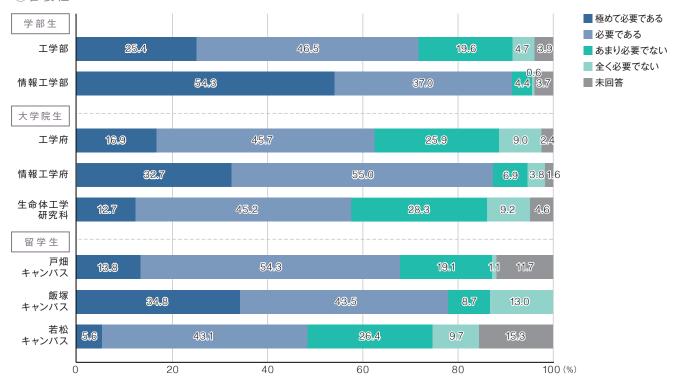
【日本人】前問同様、「よく利用する」、「ときどき利用する」の割合は飯塚キャンパスが突出して高い。飯塚キャンパスでは Moodle を 使用した講義が多く開講されているためであろう。

【留学生】Moodle については、日本人学生と同様に各キャンパスで大きな差が出た。飯塚キャンパスでは、Moodle を使用した講義が多く開講されているためか。

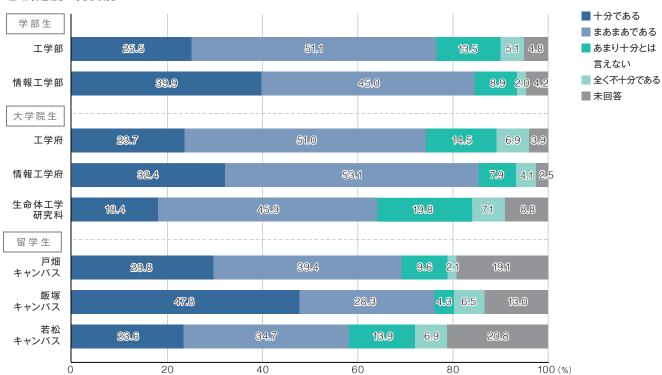
①利用について



②必要性



③ 満足度・充実度

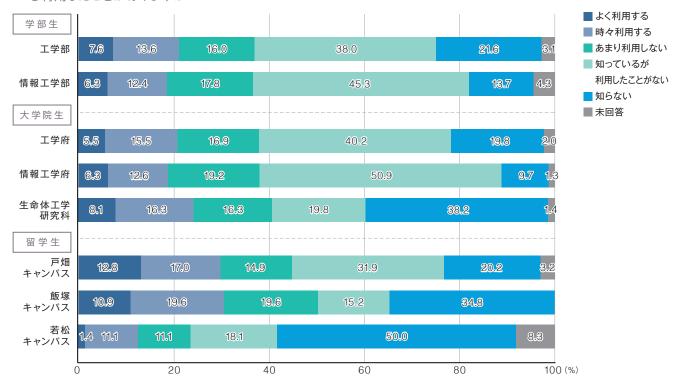


6. 自主的学習環境について

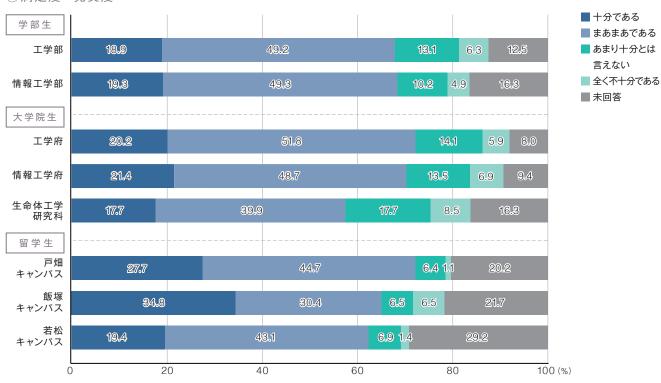
【日本人】生命体工学研究科で「知らない」が多いのは学外からの進学者が多いためであろうが、戸畑キャンパスで約2割、飯塚キャンパスで約1割が「知らない」と回答しているのは、やはり周知不足の可能性が否めない。

【留学生】「知っているが利用したことがない」又は「知らない」と回答した留学生は、全体で 5 割を超えている。前回調査時は 4 割だったことや必要性が高いことに鑑みると、利用の積極的な案内や利用しやすい環境づくりが求められる。

①本学の図書館に設置している学習支援室(情報工学部では学習コンシェルジェ・ステーション) を利用したことがありますか



②満足度・充実度

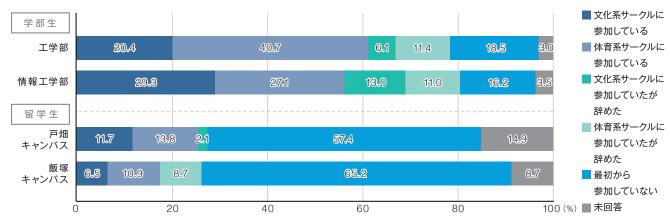


7. 課外活動(学部生のみ)

1. サークルに参加していますか

【日本人】何らかのサークルに参加していると回答した学生が6割程度いるものの、前回調査時より減少傾向にある。工学部では体育系サークルに参加していると回答した学生が多いのに比べて、情報工学部では文化系と体育系が同程度となっている。

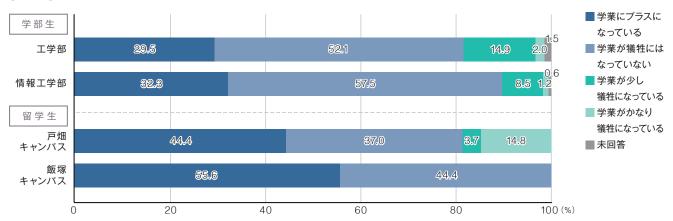
【留学生】日本人学生と比較すると、半数以上の留学生が何の団体にも所属していないことが分かった。所属していない理由は不明だが、 学部の留学生にはサークル等の勧誘をもっと積極的に行った方が良いかもしれない。



2. サークル活動と学業の関係はどうですか(サークル活動に参加している方)

【日本人】前回調査時と同様、工学部で約8割、情報工学部で約9割が「学業が犠牲になっていない」と回答しており、多くの学生がサークル活動と学業を両立させて充実した学生生活を送っているようである。

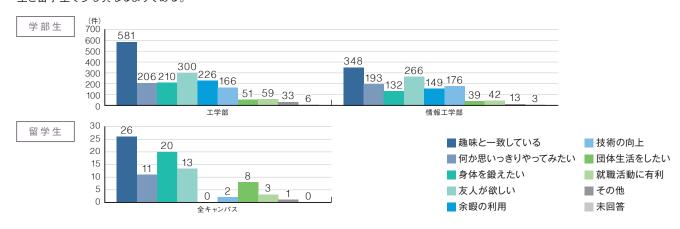
【留学生】サークル活動に参加している留学生は、約半数が活動を肯定的に捉えていることが分かる。



3. サークルに加入した動機は何ですか(サークル活動に参加している方)

【日本人】前回調査時同様、「趣味と一致している」との回答が最も多く、次いで「友人が欲しい」との回答が多く、サークル活動が充実した学生生活を送るために必要であると期待して加入していることが分かる。

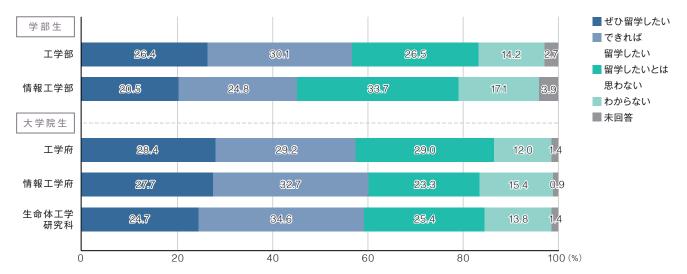
【留学生】動機として「趣味と一致している」や「身体を鍛えたい」が最多で、次いで「友人が欲しい」となっていることから、活動を通して自身の人間関係を広げたいというよりは、活動そのものを楽しむ目的で加入している。学生生活におけるサークル活動の位置づけが日本人学生と留学生で少し異なるようである。



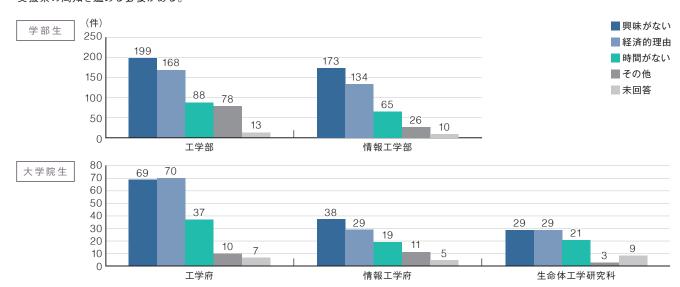
8. 留学

1. 海外留学に興味がありますか (日本人のみ)

前回の調査と比較して、学部生では「是非留学したい」との回答の割合が高まっており、「できれば留学したい」と合わせても増加傾向にある。 大学院生では、一部減少が見られるものの「ぜひ留学したい」「できれば留学したい」の回答割合が高まっている。 GCE 教育を推進したことにより、留学に対する意識の醸成ができつつあるといえる。



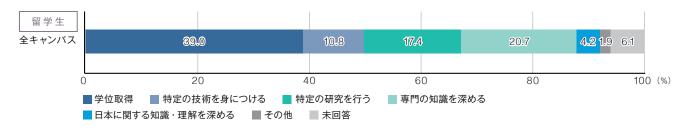
2. 海外留学を考える際、不安に考えることはありますか(留学したいとは思わない方・日本人のみ)(複数回答可)全体的な傾向は前回調査時と同様である。なお今回はクォーター制の全面導入により「時間がない」の割合が減少することが期待されたものの、顕著な減少は見られなかった。「興味がない」学生に対して意識づけが重要であるとともに、「経済的理由」については、大学からの支援策の周知を進める必要がある。



3. 日本留学について(留学生のみ)

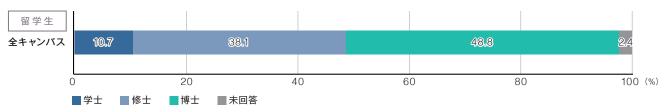
①日本留学の目的は何ですか

外国人留学生の大半が大学院生であるためか、「学位取得」との回答が最も多い。



②取得したい学位は何ですか(学位を取得したい方)

「博士」、「修士」、「学士」の順となっている。ただし「学士」が少ないことについては、学部生よりも大学院生が圧倒的に多いことを考慮する必要がある。



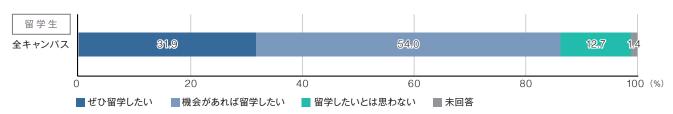
③本学を留学先に選んだ理由は何ですか(複数回答可)

「学問・研究の水準が高い」、「日本の文化や社会に関心があった」との回答が多い。また東アジア及び東南アジア出身の学生が多いためか「地理的に近い国だった」との回答も多く見られる。



④日本以外の国に留学してみたいと思いますか

前回調査時同様、8割以上の留学生が日本以外の国への留学に前向きな回答である。



⑤留学したいとは思わない理由は何ですか(留学したいとは思わない方)

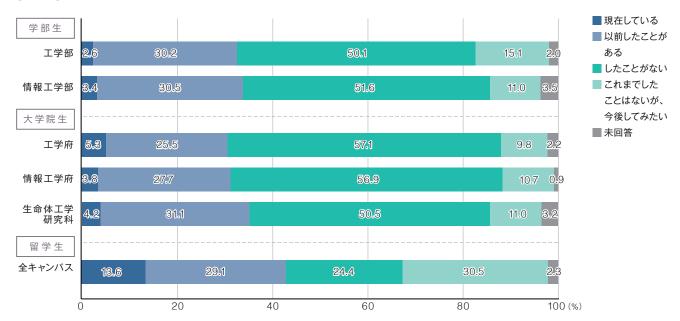
「興味がない」「経済的理由」「時間がない」との回答がほぼ同じ割合となっている。また、前回調査時と比べると「時間がない」との回答が増加しており、本学での研究を優先したいとの考えが見受けられる。



9. ボランティア活動

1. ボランティア活動をしていますか

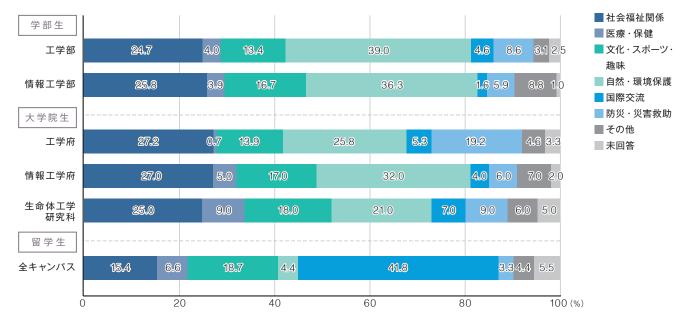
【日本人】前回調査時と同様の結果となっており、全体の約半数が「したことがない」と回答している。 【留学生】約半数が「したことがない」と回答しているが、そのうち3割は興味を示していることが分かる。



2. どのようなボランティアですか(ボランティア活動をしている又はしたことがある方)

【日本人】前回調査時と比べて、全体的に「防災・災害救助」との回答が増加した。また、「その他」の具体的な記載として「教育」、「学習支援」が複数見られた。

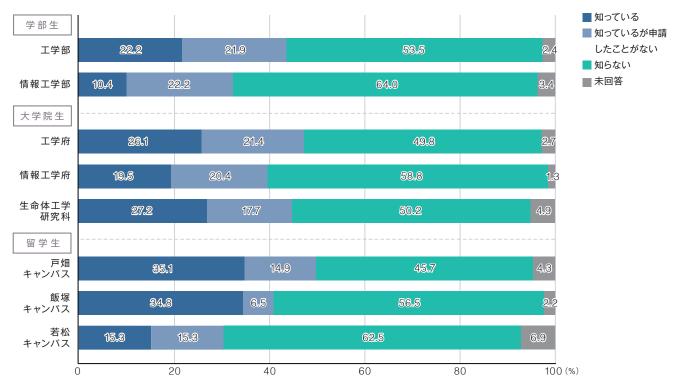
【留学生】「国際交流」という回答が最も多く、外国からの留学生という身分を生かしたボランティア活動を行う学生が多いようである。



10. 学生プロジェクト

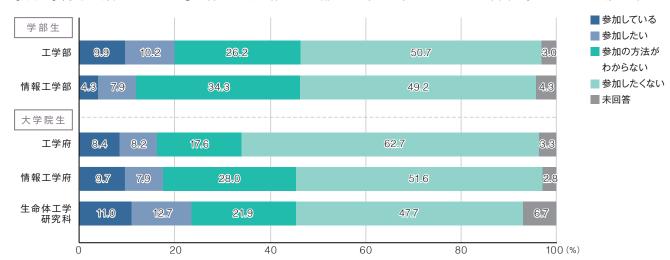
- 1. 学生の任意のグループが、自主的に企画し実施するプロジェクト活動への支援について(通称:学生プロジェクト)
 - ①学生プロジェクトを知っていますか

【日本人】前回調査時と比べて、戸畑キャンパスと若松キャンパスでは「知らない」と回答した割合が減少したが、飯塚キャンパスでは増加した。 しかしながら、いずれのキャンパスのおいても半数程度以上が「知らない」と回答していることから、引き続き学生への周知が必要である。 【留学生】いずれのキャンパスのおいても半数程度以上が「知らない」と回答していることから、引き続き学生への周知が必要と思われる。



②参加したいですか(日本人のみ)

【日本人】「参加の方法がわからない」を含めると、全体として4割以上の学生が学生プロジェクトに興味を示していることが分かる。

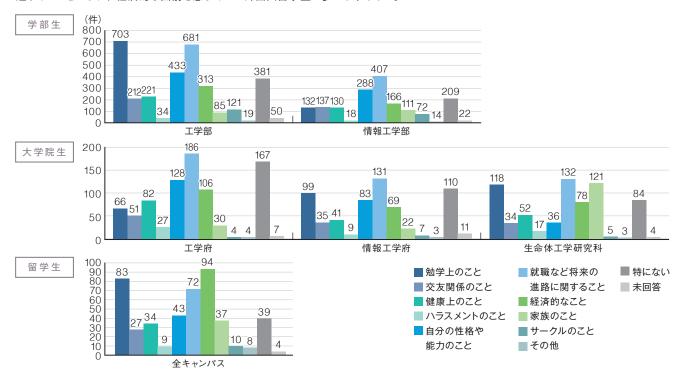


11. 悩み・健康等

1. 今、何か悩みを抱えていますか

【日本人】悩みについては様々であるが、「将来の進路に関する悩み」が全キャンパス共通して 1 番多く、多くの学生が進路に関して何らかの相談を必要としていることが伺える。多様な悩みに対して、関係部署が連携しトータルな対応が可能となる体制づくりが望まれる。 進路の悩みについてはキャリアカウンセリングや OB、企業との交流等を充実させることが有効と考える。

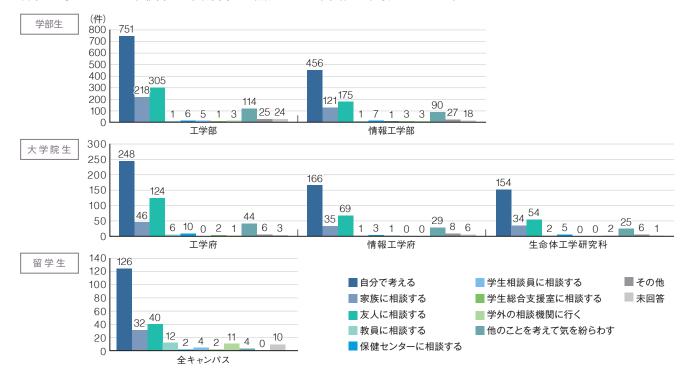
【留学生】「経済的なこと」が最も多く、次いで「勉学上のこと」「将来の進路」となっている。授業料等免除や奨学金の申請経験とも関連しているとみられ、経済的な困窮を感じている外国人留学生が多いようである。



2. 身体面、心理面で何らかの悩みが生じたときどのように解消しますか

【日本人】悩みが生じたときの解消法としては、多くの学生がまず自分で考えて、解消できない場合に友人や家族に相談していることがうかがえ、学生相談員や学生総合支援室等は学生に認知されていないのか、あまり活用されていないようである。ストレス・コーピングの教育とともに、学内の各種相談窓口の存在について周知し、必要なときには気軽に利用できるよう環境整備が望まれる。

【留学生】「自分で考える」が最も多く、次いで「友人に相談する」、「家族に相談する」となっており、なかなか他人に相談できない外国人留学生が多いようである。教員や大学職員等にも相談しやすい環境作りが必要かもしれない。



3. 自分の健康について何か取り組んでいることはありますか

【日本人】学生区分に依らず、健康維持のために何かしら対策している学生と、特に何もしていない学生の割合はほぼ半々であり、健康に関心があるのか無関心なのか、学生の意識が二分化していることが分かる。健康維持は大学生活に大きな影響を及ぼすことから、保健センターや学生総合支援室等と連携し、心身の健康への意識を高め、個々の自己管理につながる指導が必要である。

【留学生】十分な食事、十分な睡眠、運動等、健康に資することを実施しているとの回答が多く、良い傾向である。



4. 学修上、生活面等の悩みなどに対応する学生相談員について

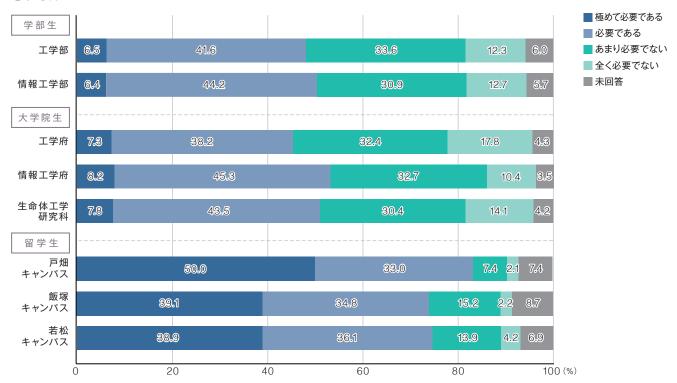
【日本人】学生相談を活用している学生は、学生区分に依らず 1 割も満たしておらず、約 5 割の学生が「知らない」と回答しており、認知度が低く、学生にとって身近ではないことが分かる。しかしながら、多くの学生が「必要」と回答していることから、普段は意識しないとしても、必要な時に学生が相談しやすい環境づくりが必要であろう。

【留学生】日本人学生に比べると利用経験者の割合は高いようである一方、3 割程度は「知らない」と回答していることから、引き続き学生相談員制度の周知も必要と思われる。

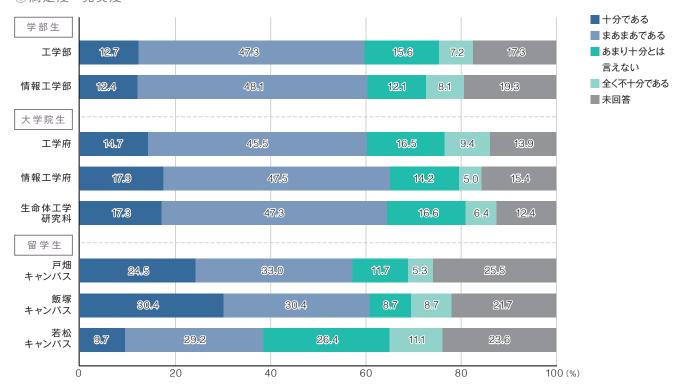
①利用の頻度



②必要性

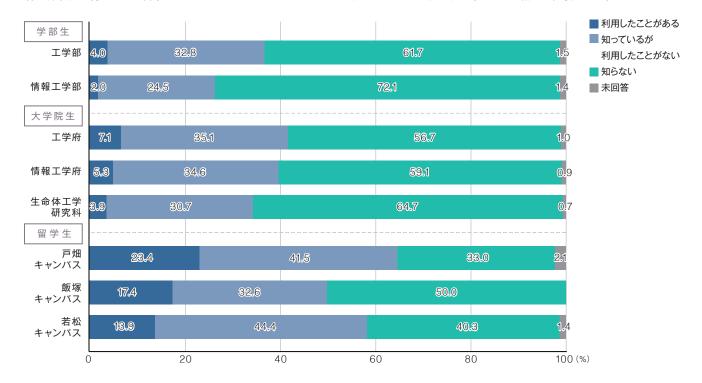


③満足度・充実度



5. 学生総合支援室を利用したことがありますか

【日本人】前回調査時に比べると飯塚キャンパスと若松キャンパスでの認知度が大きく上昇しているものの、「知らない」との回答が6~7割程度あることから、学生総合支援室の周知に努める必要がある。また、利用経験者の割合が低いことから、より気軽に利用できるようなPRも必要かもしれない。【留学生】日本人学生に比べると認知度は高く、「利用したことがある」の回答率も多い。引き続き学生総合支援室の周知を行うとともに、特に日本語が得意でない留学生とカウンセラーがコミュニケーションを取りやすくする工夫も、大学として整備する必要がある。



12. 進路・就職支援

1. 卒業後の進路をどのように考えていますか

【日本人】大学院生はほとんどが就職と回答している。一方学部生では、工学部は大学院へ進学するとの回答が最も多いが、情報工学部では半数近くが就職と回答している。

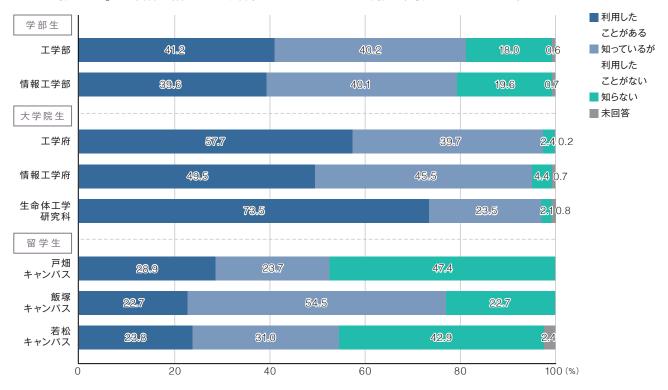
【留学生】いずれのキャンパスも「就職」が最も多く、次いで「帰国」が多い。特に戸畑キャンパスでは、回答の約3割が「帰国」となっており、本学で学んだことを日本での就職に限らず、母国で活かそうと考えている留学生が多いことがうかがえる。



2. キャリアセンターを利用したことがありますか(就職を希望されている方)

【日本人】学部生は約4割が「利用したことがある」と回答している一方、2割近くが「知らない」と回答しており、また戸畑キャンパスと飯塚キャンパスの学生の4割程度が「知っているが利用したことがない」とも回答している。キャリアセンターの認知度は高いが、センター活用のためのさらなるPRが必要かもしれない。生命体工学研究科では7割超の学生が「利用したことがある」と回答している。

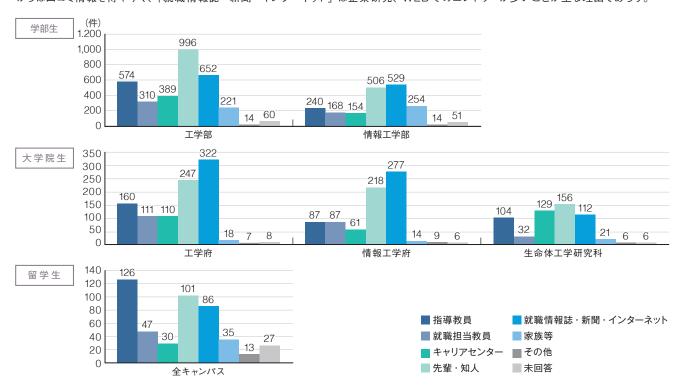
【留学生】前回調査時に比べると、特に飯塚キャンパスと若松キャンパスで「利用したことがある」との回答が減少している。また、いずれのキャンパスも「知らない」との回答が増加しており、留学生へのキャリアセンター周知の必要があるかもしれない。



3. 進路を考える上での情報入手手段は何ですか(複数回答可)

【日本人】全体的に「先輩・知人」と「就職情報誌・新聞・インターネット」との回答が多い。「先輩・知人」からは口コミ情報を得やすく、「就職情報誌・新聞・インターネット」は企業研究、WEBでのエントリーが多いことが主な理由であろう。また、とりわけ生命体工学研究科で「キャリアセンター」との回答が多く、前問の結果との関連がうかがえる。

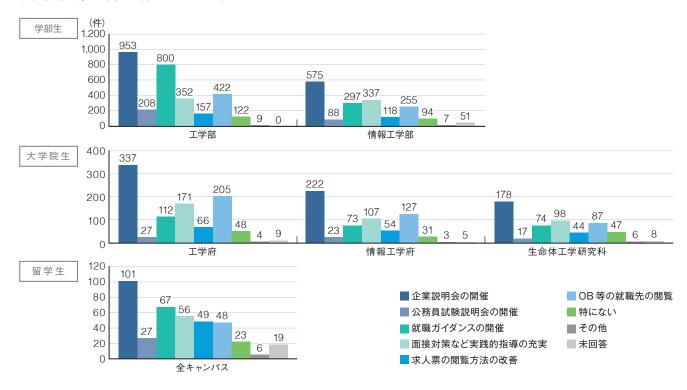
【留学生】「指導教員」が最も多く、次いで「先輩・知人」「就職情報誌・新聞・インターネット」が多い。日本人学生同様、「先輩・知人」からは口コミ情報を得やすく、「就職情報誌・新聞・インターネット」は企業研究、WEBでのエントリーが多いことが主な理由であろう。



4. 就職支援に関し大学に希望するものは何ですか(複数回答可)

【日本人】全体的に「企業説明会の開催」が最も多いが、工学部では「就職ガイダンスの開催」が目立つのに対し、情報工学部では「面接対策など実践的指導の充実」との回答が多く見られる。また、いずれのキャンパスでも「OB 等の就職先の閲覧」との回答が多く見られ、本学 OB が就職支援に及ぼす影響が大きいことが分かる。

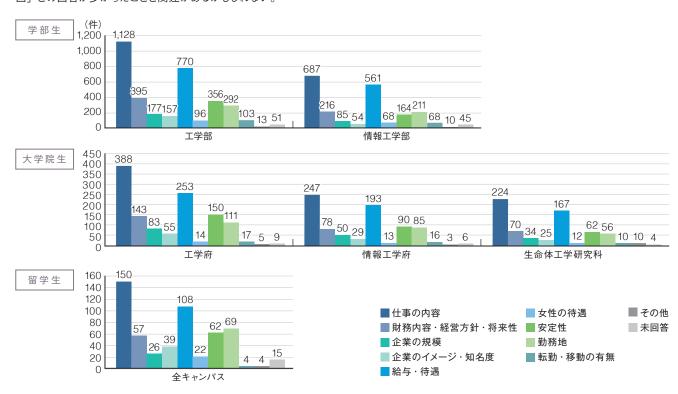
【留学生】「企業説明会の開催」が最も多く、次いで「就職ガイダンスの開催」「面接対策など実践的指導の充実」となっており、企業への就職活動に対する関心の高さがうかがえる。



5. 就職する場合どのようなことを重視しますか(複数回答可)

【日本人】全体的に「仕事の内容」が最も多く、次いで「給与・待遇」が多い。また、「財務内容・経営方針・将来性」や「安定性」といった堅実性を見る学生が比較的多いことがうかがえる。

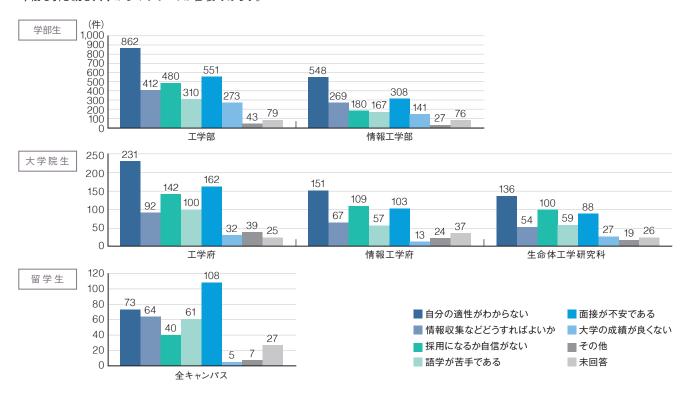
【留学生】傾向は日本人学生とほぼ同様で、「仕事の内容」が最も多く、次いで「給与・待遇」が多い。「勤務地」が多いのは卒業後の進路に「帰国」との回答が多かったことと関連があるかもしれない。



6. 就職に関して不安に思っていることは何ですか(複数回答可)

【日本人】全体的に「自分の適性がわからない」、「面接が不安である」、「採用になるか自信がない」との回答が多く、今後も継続して大学側のサポートが必要である。

【留学生】「面接が不安である」が最も多く、設問4.で「面接対策など実践的指導の充実」の要望が多かったこととの関連がうかがえる。 今後も引き続き大学からのサポートが必要であろう。

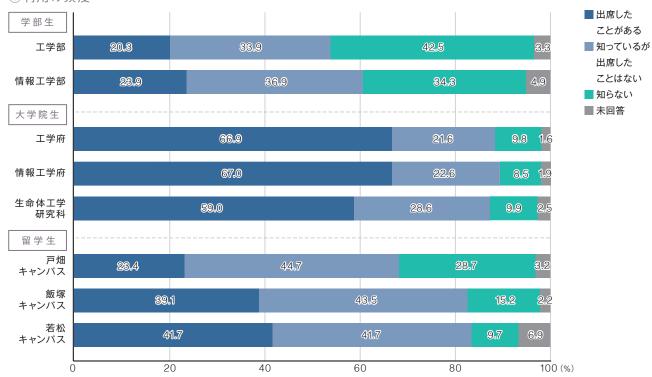


7. 就職セミナーについて

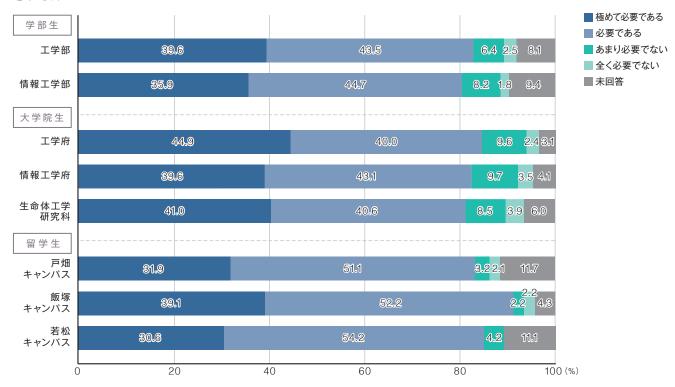
【日本人】学部生は進学希望者が多く興味が薄いこともあってか、「出席したことがある」との回答は 2 割程度である。一方、大半が就職希望の大学院生では、約 $6\sim7$ 割が「出席したことがある」と回答しており、必要性や満足度もおおむね高い結果となっている。今後も就職セミナー実施によるサポートを継続していく必要がある。

【留学生】「出席したことがある」「知っているが出席したことはない」を合わせて戸畑キャンパスで 7 割近く、飯塚キャンパスと若松キャンパスが約 8 割となっており、認知度は高い。また未回答を除けばほとんどの留学生が必要性を感じており満足していることから、今後も継続して就職セミナーを開催することが望まれる。

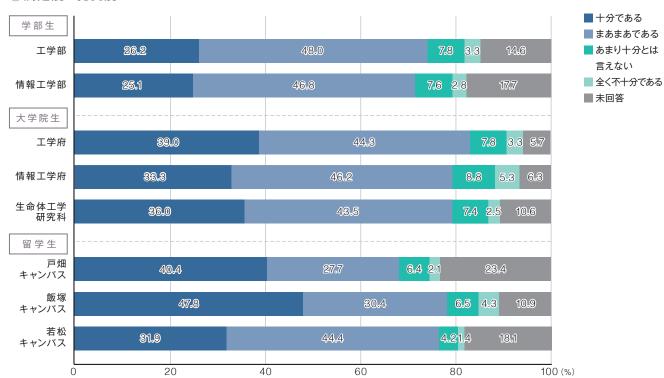
①利用の頻度



②必要性

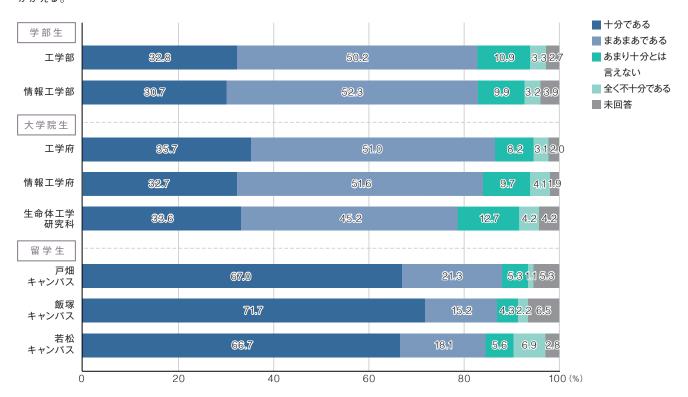


③満足度・充実度



13. 危機管理支援

1. キャンパス内での安全対策(警備員の配置、外灯の増設、女子トイレの非常ベルの設置など)について 【日本人】前回調査時と比べて、飯塚キャンパスにおいて「十分である」「まあまあである」との回答が増加し、8 割超となっている。 【留学生】各キャンパスとも「十分である」、「まあまあである」が合わせて 8 割を超えており、満足のいく安全対策となっていることがうかがえる。



おわりに ==

調査の最後に、学生の皆さんに大学に対する要望や意見を求めたところ、非常に多くの要望等をいただきました。

学部生では、授業に関する意見や教室・実験等の教学施設の環境改善を求める要望が多くありました。学部生・大学院生共通して、食堂の混雑等、学生食堂・福利厚生等に対する意見が多く見受けられました。学生生活全般に対する意見では、前回調査結果と同様に、全学的に駐輪場や駐車場の増設、整備等が求められていました。

これらの意見等を参考に修学支援、福利厚生や課外活動等への支援、環境の 改善を図っていきたいと思います。

> 九州工業大学学生委員会 委員長 副学長(学生·附属図書館担当) 赤星 保浩

